

新春御挨拶 小林理事長	1
御挨拶 柳沢繊維学部長	2
菅平ヒュッテを利用される方へ	3
移住地を訪ねて	5
第27回千曲会総会記事	8
会 員 動 静	16

千曲会報

No. 164 昭和42年1月1日

編集兼発行人 小 林 尚 一
 発行所 社団法人千曲会
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内
 振替長野 6243・東京43341
 電話 上田 (2)1215 (代表) (2)1218 (直通)

頌 春

新 春 御 挨 拶

社団法人千曲会理事長 小 林 運 美

全国千曲会員の皆様「明けましておめでとうご座います」昨年11月23日千曲会第27回総会で役員選考委員会なるものができて委員長が理事長に私の名を呼び上げました。私は全く寝耳に水で、びっくりしました。そこで私が「いやだのおうだの」と云っても仕方がないので、これも世の中のおつとめと考えてお引受けする事にしました。

あとで聞いた話では、過去何年間か千曲会の理事長は学内の同窓会員の先生がなる事が慣例の様でしたのに今回急に学外のしかも東京在住の私に指命があったのは千曲会役員構成の本来の姿としては、理事長は適任者であれば学内であると学外であるとを問わないという意見が多数を占めた次第であるとか。最近母校および千曲会に重大問題がある折から私の適任不適任は別としてお引き受けした次第であります。

これらの問題のうち2つは私にとって終生忘れ難い出来ごとでありました。

曰く、「教養統合問題」曰く、「蚕糸教育改善問題」前者はご承知の通り完敗に終り、その不手際を今頃になって云々する人も居るとか、死んだ子供の歳を算えたくない。それよりも次の問題は未だ未解決であり全国の同窓各位も見守って居る重大問題であります。古い言葉であるが日進月歩の今日、曾って輸出の大宗と云われた吾蚕糸業も現在、生糸輸入国となり、我国の蚕糸業の一大転換期が到来しました。しかし一方では繭の増産が叫ばれ、農家の現金収入として何物にも換え難いと言う地方農家も相当多数ある現況であります。

現在の母校は御承知の通り、其の教授陣容、設備等立派な工科大学として成長して参り此処約十年近くの学部長教官各位の努力はなみだいていのものでなかったものであります。

勿論文部省当局も時代の要求に則って、現在日本産業界の必要とする大学々部の各科を増設して参り、木造の旧校舎の一棟や二棟（火災にあった）はたいした

問題でなかった。

歴史ある蚕糸教育機関もそう簡単に放置しておくわけにはいかない。現在三つの大学に細々と煙を上げて居るこの機関を一つにまとめ、確りしたものにしたい考えは当然な事で、これを何処の大学を中心としてやって行くかが今後の重大問題なのである。残り少なかった此等の関係教授各位と、蚕糸業に直接関係のない先生方を加えた学内教官各位が、此の問題をどう処理されるか？一応学内の問題として真剣に考えて頂きたい。

吾々同窓会はこの学内の重大問題ではあるが、血眼になって騒ぎ立てるものでもない。かと云ってどうなってもかまわないと云うのでもない同窓会は学内に対して圧力団体であってはならない。むしろ良き相談相手と云う立場で、ものを考えて行きたい。

繊維学部の中に（又は別の単科大学でも良い）斯様な細くて強い野趣のあるデリケートな学科が一つや二つあっても何にも不思議ではないではないか。地下鉄も場所に依っては屋根の上を走る場合もある。昨年私の非常に親しい友人（英国人でロンドンにあるボーイスカウト世界指導者訓練所々長J. T氏）が三度目の来日をしたので、或る一日東京都内見物のドライブをした。その時の話をご紹介しますと、彼氏曰く、「オリンピックも終ったのに東京は未だ方々で大きな道路工事をして居る様だがどう云うわけか？」と云う質問です。私はこれは大部分が地下鉄工事で、もう直ぐにロンドンの地下鉄に追いつく予定だと申しました。（少しオーバーだったが）ところが彼氏真面目くさって曰く、「それは大変だ、早速帰ってロンドンの地下鉄を延長する為に自分もシャベルを持たなくては」と

(My Goodness, I must rush back to London and start digging with my own shovel myself If that is really the case.)

私は改めて彼氏の顔を見直した次第であります。



御 挨拶

信州大学 柳 沢 延 房
繊維学部長

本日千曲会の総会がとり行われますに当り不肖私名譽会長に推され誠に光榮に存ずる次第であります。本年4月より繊維学部長の職をけがし未だその経歴も浅く非才であり、その重責を果すには学部内は勿論千曲会の諸先輩から温い御支援を仰がねばなりませんので、この席をおかりして御依頼申し上げます。

この総会の時間を拝借して学内の近況を簡単に御報告致します度いと思ひます。

卒業生の皆様には平素多忙のため、学部になかなかお出掛け頂けないような事情もあり、また最近の卒業生の諸君たちが研究室に寄られた時など、学内の建物が変わったこと、庭園の樹々が大きく美しく成長したことなど第一番に申されますので建物について一言御紹介致します。校門をはいて左前に繊維機械学科研究室、続いて2〜30mの距離をおいて火災で失った旧本館跡に西側から東に向かって繊維化学工学科研究室、繊維工学科研究室が続き、その棟の中央から北方に共通講義室がT字型に建てられています。以上何れも三階鉄筋コンクリート建であり、更に繊維工業化学科の本造建の東に高分子工業研究施設鉄筋コンクリート二階建てが出来、続いて42年4月には繊維工業化学科の四階建てが化学科本造建から製図室の方に向かって着工の予定になっています。庭園の樹々、ここにけやきや柳は学園の長い歴史を物語り学府にふさわしいふん圓氣をただよわせています。

次に信州大学として従来教養課程の履修が上田、長野、松本の三地区に分散して行われていたのですが、全学統一した教養部設置の意見が他学部から強く打ち出され、繊維学部としては従来繊維学部独自で教養課程の履修を行っていた関係で、統一には多くの難点があり、出血も覚悟せねばなりませんので学部内の意見統一に難渋したのであります。ただ教育的見地から学生に一年だけでも全学生が同じキャンパスで互いに机を並べて学び且つ情熱的に論じ合うことは視野を広くし、交友範囲もひろまり、学部間交流も増すことなど教養本来の趣旨に添う多くの利点も考えられ統合の線に踏み切ったのであります。その教育効果については暫く時をかきねばなりません、現状としては大学教養部がいよいよ成長を遂げ、教育の実を充分發揮することを心から念願する次第であります。先日教養部長から10月現在の入学生の状況についての報告がありましたのでそれを簡単にお伝え致します。本年4月入学した学生総数1,175名、うち退学者3名のみで教養学生互いに解け合って勉学にいそしんでいるとのこと。教養部発足まもないので教官陣容、講義室、実験設備、図書など充分ではありませんが、着々その充実をはかり、講義室研究室、学寮等の建物も既に半分が建てられ、42年度中に約2,600坪の竣工が予定されているとのこと。

以上のように教養部が発足するにあたり繊維学部から17名

の教官が松本に移られ、学部では現在教官78名、研究補助員71名、事務系職員53名、計202名で運営しており、学生も一年の諸君がいなくて一沫の淋しさはありますが、一同協力し、教官学生間も比較的円満に勉学に励んでいます。また大学院修士課程はこの4月初めて修了生を社会に送ったのでありますが、志願者も年を追って増加の傾向にあります。この4月定員32名、志願者24名うち入学者15名でした。なお学部の本年度志願者、入学者の数を申し添えますと志願者1028名入学許可者215名で約5倍の高い競争率でした。なお来年3月の卒業予定者の就職状況ですが、本年もなかなかの狭い門であります。先般各位の御援助などもあり、卒業期には100%の就職は殆んど間違いないものと見ています。既に全体として85%程度は定っていますが、只今最後の努力を続けております。

次に前々から文部省を中心に問題になっていました蚕糸教育統合の問題について一言申し述べ度いと思ひます。この件について去る6月文部省から当学部の其の後の態度について問い合わせがあり、直ちに教官会議を開き従来の方針を再確認し学長を通じ文部省に答申したのであります。それは「上田、東京、京都の関係三大学の協力により理想的蚕糸教育統合の話し合いには当学部としても協力をおしめないものであるが、こそこの統合には協力出来ない。学部としては今後共この方針に添うものである」というのであります。なおこの問題につきましては先に千曲会の猪坂、笠原、井沢の三先輩と山口理事長の来訪を受けたのでありますが、学校としての教育的立場、社会の要請、将来の見通しなど多くの問題を含むだけに多方向、多角度からの意見も充分参考に致さねばなりませんので、今後の御協力御助言をお願いいたしたような次第であります。

次にもう一つつけ加えて御了解頂き度いことは、昭和37年1月の旧本館火災の際いち早く千曲会から御厚志を頂きました復興資金の使途についてであります。火災で失った講義室の復興はその後全面的に文部省の出資で再興出来たので去年学生会館の建設の一部に使わせて貰うよう千曲会の御了解を得たのでありますが、文部省の許可がありませんでした其の後学生会館建設の許可を得るのが容易でないことが解り一方従来から学生ホールの手狭が問題になり急を要する所から、再度方針をかえ別に本部に要求して学部食堂の改修を見復興資金の御厄介を受けずにすんだような次第であります。一応以上のような結果になりましたので何れまた学部としても充分研究した上で使わせて頂くことになるかと思ひますので其の節は何分の御援助をお願い致します。

なおその他お伝えいたし度いことも多々ありますが、以上極く簡単に学内の近況を御報告いたしまして本日の御挨拶にかえさせて頂きます。

退 任 の 御 挨拶

千曲会前理事長 山口 定 次 郎

新年を迎え皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

私は会員各位のご推挙により、過去2年間、榮ある理事長の席を汚して参りましたが、先般の役員改選により、退任させて頂くことになりました。今日まで陰に陽にご指導、ご激励、ご協力をたまわった多くの方々に対し本紙を通じ厚くお礼を申し上げます。役員は退きましても、母校には現役勤務ですから今後とも器に応じて仕事をお申付け下さい。

退任に際し、省みて任期中大過なく……と申したい処ですが、本会本来の会の一般運営についてはともかくとして、皆さんの絶大なご協力、ご指導にもかかわらず、母校では、恰も、教養部統合、大学の蚕糸教育改善など、信州大学、または国家としての方針に基づくような問題が大きく矢張りばやにおきてまいり、これに関連して、愛校心にもえる同窓生の希望や、意志のあるのも当然です。私はできるだけ、

母校に対する同窓会の希望を反影させるために努力いたすとともに、反面とかくこのような、改革期におこりがちな同窓会と学校との間に生じやすい「誤解」をまねくことのないよう心がけてまいったつもりですが、微力、無策、遂に何の業績もなく退任しますのは誠に申訳けなく存じます。

幸にして今回の改選により、新しい酒を入れるにふさわし

い新しい革袋が作られましたことは、今後の新しい時代の同窓会の運営のためにも、また改新途上にある母校の発展後援のためにも心強い限りで慶びにたえません。

新理事長小林運美氏副理事長田口教授、母袋氏の3人のすぐれた手腕に期待される案件はは少なくないと思います。ここに新役員各位のご健闘を祈り、退任の挨拶といたします。

菅平ヒュッテを利用(自炊制)される方へ

菅平ヒュッテは、食堂の拡張にともない、今年度から完全自炊制になりました。これは、ヒュッテの管理運営をもっと円滑合理的なものにしようとの念願から、昭和39年度、学部教職員および学生代表よりなる運営委員会が組織された当初からの一つの目標でもあったわけです。したがって、使用者心得、もかなり修正されましたので(“使用規程”には変更ありません)お知らせ致します。ヒュッテを利用される方は、これをよく読んでいただき、手違いのないよう御注意申し上げるとともに、ヒュッテの円滑なる管理運営に何卒御協力をお願い致します。

信州大学ヒュッテ使用規程および心得

使用規程(抜粋)

第5条 ヒュッテを使用しようとする者は、使用開始日の10日前までに所定の使用願を厚生補導係に提出し、使用許可証の交付をうけなければならない。

第6条 ヒュッテ使用申込みの際、使用料として納入すべき経費は1人1泊につき100円である。ただし課外活動に使用の場合は必要としない。

第7条 ヒュッテの使用期間は原則として1回3泊4日以内とする。ただし課外活動など補導委員長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第8条 ヒュッテ使用を許可された者は、使用許可証ならびに学生証または身分証明書を持参し、管理人に提示、所定の経費その他を納入しなければならない。

使用者心得(全文)

菅平ヒュッテを使用する者は、使用規程に定めたものの外この使用者心得を遵守しなければならない。

(1)ヒュッテ使用許可は先着順であるので、何人かのグループで使用する場合は、なるべく早目に厚生補導係に申し込まれたい。とくに合宿などの場合は少なくとも1ヶ月前までに申し込んでおく(この場合、責任者は名簿をそえて使用願を提出)が必要である。

(2)ヒュッテに到着したら直ちに使用許可証を管理人に提出し、使用許可者名簿と照合承認をうけ、管理人の指示に従うこと。またもし管理人が必要とした場合は、何時でも学生証または身分証明書を提示のこと。

(3)ヒュッテ使用の際、管理費、光熱費その他として納入すべき経費は、1人1泊につき夏季150円、冬季200円である。ただし納入した経費は宿泊その他を変更しても払戻しをしない。

(4)宿泊する者は管理人から宿泊室の指定をうけ、寝具の配布を受けること。

(5)ヒュッテは完全自炊制であるが、炊事場および食堂はせまいので、多人数宿泊の場合にはあらかじめ相互の話し合いによって利用順番を定めるなど、互いにゆずりあい協力し合って、混乱を引き起さないよう心掛けること。

(6)起床、食事(食堂利用時間)入浴、消灯等の日課時限は

厳守のこと。

	夏 季	冬 季
起床	6時30分	7時
朝食	7時～9時	7時30分～9時30分
昼食	11時30分～1時30分	11時30分～1時30分
夕食	6時～8時	5時～7時
消灯	9時30分	9時

入浴時間はその都度指示する。

(7)起床と同時に各自寝具を整頓し、部屋および廊下の清掃をおこなうこと。寝具は病気その他特別の場合のほか、昼間は使用しないこと。

(8)食堂利用時間は上記の通りであるので、炊事はそれに間に合うように各自が計画し、時間厳守につとめるべきである。食事を終ったら、直ちに各自が食器を洗って返却し、空缶など不用物は所定の場所にすて、食卓を清掃すること。なお食事は病気その他特別の理由により、管理人が許可した以外の者はすべて食堂で行なうこと。

(9)ヒュッテ内での飲酒は厳禁する。

(10)火気の取扱については各自が十分注意し、つぎの事項を厳守すること。

④ヒュッテ内およびヒュッテ近傍でのたき火は一切行なってはならない。

⑤ストーブは管理人または管理人が指定した者以外は扱わぬこと。

⑥喫煙は指定の場所で行ない、吸殻は必ず灰皿にすて、廊下や窓の外などには絶対すてないこと。

⑦備付の照明以外は用いないこと。

(11)宿泊中は、建物内外の清潔、整頓に注意し施設の管理に協力すること。

(12)風紀を乱したり、他人の迷惑になる行為をしてはならない。ことに消灯後は必ずそれぞれの寝室に入り、静粛にすること。

(13)寝具その他の借用物品は退去の際十分手入れをして管理人に手渡すこと。

(14)ヒュッテ内に荷物をあずけて下山してはならない。

(15)ヒュッテ利用で登山する際は、天候気象に十分注意するとともに、必ず管理人および観光協会に行動予定その他必要事項を届けおくこと。

⑧(16)ヒュッテを合宿など課外活動に使用する場合は、とくに代表責任者は必ず炊事係、火気係、清掃係その他を適宜任命し、管理人に連絡、それぞれ任務を分担させ、集団生活の実をあげるよう協力すること。

⑨(17)ヒュッテ内で休けいしようとする者は1人につき50円納入のこと。休けい時間は午前9時より午後5時までとする。

(18)冬季スキー部が管理人の代行をすることがあるので、その際はその指示に従うこと。

(黒岩記)

三本の矢は折られたが

—総会を終わって思うこと—

斎藤 義 臣 (4652)

三尺きがつて師の影を踏まず、といった明治は遠くなくなってしまった。老齢な同窓生にとっては淋しい限りであろう。

だが今様の考えが必ずしも明治の理念の全てを無視しているものでないことを角度を変えてみる必要がある。

絶対君主制の時代と民主主義時代の違いが、如何にはっきりと区別できようとも、人間関係における師弟愛とか、同窓関係における敬愛という本質は、いささかも変っているものでない。

ギルド時代のような徒弟的關係におかれた、古き良き時代の都の花は見ずもあれと歌った狭い専門学校から、社会改革と共に大学に進んだ今日で、一番問題なのは、未だ頭の中に古い思想の残渣のある人々と、これを心よく思わない人々との間の相互不理解における葛藤ではなからうか。

これは過渡期における必然性であるとも見られようが、余りにも時代遅れの低開発性と教育国信州という名の地に反した民士の低さすら感ずるものがある。

戦後の千曲会を母校にとっての大きな問題を顧みつつ、その推移をたどってみよう。

第一にあげられるものが、単科大学昇格の運動である。あの頃は野趣豊かな同窓諸賢が、繊維産業の隆盛に応じて、日本に一つ位繊維大学を単独で持つのが至極当然と考え、果てはムシロ旗まで立てて、政治的に大奮闘を行った。だが、あれは米価値上げ斗争における農民組合的な政治圧力化は期待できなかった。

それと、も一つ欠けた点は、日本の官僚政治に対する考え方が甘かったと思われる点である。日本の政治家(代議士)は、政策を知らない。ただ絶対多数の権力と陣傘の順番で大臣になる。だから下僕であるべき官僚に全てを教えられ、その言うなりになっていて、完くの飾り物大臣である。

こんな政治家のみを頼りすぎた感があったことは否定できないところであろう。

第二にあげられる教養学科統合反対すなわち単科大への足がかりの喪失防止の運動は、ムシロ旗の応援団にこりた学部長が極力政治的圧力を払いのけ、自己の自信のもとに官僚攻勢一本槍で進んでいた。

だがこの斗争の敗因は、自信を失った学部長が一事不再理の民主主義原則を無視して、一度教養統合(松本へ)反対と決定した教育会議の決定を、再度採決を強行させられ、統合賛成に逆転してしまったことにあるが、この記憶が後世に残る悲しい事態となってしまった蔭には、そうさせた種々の要因がひそんでいたからに他なるまい。

最も驚くべきことは、社会主義社会の実現を願い、それに日夜努力している急進的な人々が、国家独占資本による政府の安上り文部行政である統合と中央集権化に対して、絶対反対の立場を取るべきなのに逆に賛成に出たことである。

そしてこの要因の中には、多分に同窓生教官と他の教官との間におけるあつれきが禍していたことも見のがせない。

大学出身者のアル意識、千曲会という処? の威をかる孤(千曲会貴族)だというにくしみ。

片や同窓教官は、自信喪失状態と意地地さから、次第に疎遠になって行った。

これが積年のあだとなって、遂には同調できることも同調できなくなってゆくという悪循環の繰り返しが今回の二派分裂への大きな原動力となったものではなからうか。それは理論的分裂よりも感情的分裂が大きく感じられた点でも納得い

こう。

教官の数、科目の数が少なすぎるとか、教官の質が悪いとか、教養のみを見ても上田のみより松本へ行けば多くのいい先生の講義に接し、多くの友と相語らえて見聞が広まるとかいった理屈は、否定すべくもないが、それなら旧帝大以外には単科大学は永遠に出来る可能性がないともいえよう。

事の始めは全て不満足の中から一つ一つ積み重ねて前進し歴史の中から完成が産れ出るものであることは今更贅言を要しまし。

結論的には同窓の教官にも、それ以外の教官にも、松本へ行った教官にも、何等得る処は少なく、生徒が松本に居たという思い出の一コマを産み出す結果になったこと、上田が半永久的に単科大への夢を破られてしまったことであり、さらに最も悲しいことには、同窓教官と同窓外教官と千曲会と三本の矢が、それぞれに折られてしまったという、おびしきのみが残ったことでなからうか。

これから起るであろう系学科の三校統合の問題にしても頭の悪い学生を集めて滅びゆく系学科(本誌第156号には拙筆で衰退とは述べていないが)の教育をしてもつまらないという教官、東京へ統合されれば子供の教育上便利だという教官、上田こそ養育教育の最適地だという、それぞれに異論があるであろうが、多くの矛盾は努力によって解決できることを考えて善処して貰いたいものである。

良きにつけ悪しきにつけて、同窓生が千曲会の名において母校に貢献した幾多経済的、精神的効用は未来永遠に残るであろうことを信じつつも、一時的矛盾が過去、現在、将来ともに起り得ることも、時の流れと共に見のがすことは出来まい。

ただ、それが感情的でなく、冷静に発展的に解決されていくことを念じて止まない。

今回の総会においても、同窓生5,000人の内、理事者30名に対して、学内からの理事は半数の15名から10名に減り、理事長も今まで学内から出ていたものが、学外から選出されることになった。

或人は、千曲会の敗退を憂え、或る者は同窓教官の逃避を非難するむきもあった。

だが、この事によって千曲会と母校が少しでもうまくいって、過去の誤解が緩和され、本来の車の両輪のごとく発展するならば、一時的な批判は甘んじて受けてもよいではないか同窓教官も他の教官も、お互に胸襟を開いて母校の発展を考え、千曲会もそれに協力して三本の矢が一体となって信大繊維学部が、より向上してゆくことを心から願うものである。

基礎研究に、品質管理に…

新しい光沢度測定器

三次元変角光度計

顕微光沢計

株式
会社

城南製作所

上田市荻久保 (5) 0340 (代)

移 住 地 を 訪 ね て

茨城県立笠間高等学校長 加 藤 省 三

このたび、はからずも海外移住事業団ならびに外務省、文部省、皆様の特別なはからいで、国際人として活躍している人々の地を訪ねることが出来、高校教師としてこの上もない研修の機会が与えられたことに、先ずもって深く敬意を表したい。

日ごろ教育という場において海外教育問題を取り上げて全国的に研究討議はするものの、現地教育の経験のない空論を繰り返していた矢先でもあり、今回の体験によって、より深い真の国際移住教育の印象をうけ、今後の教育に向うことのできたことはなによりうれしい。

それぞれの移住地で真の人間社会を作るべく取組んでいる人々と膝を交え、枕をならべて語り続けたわれわれも心を新たに教育の道に考えたのである。

海外で活躍している人々の経営は全く素晴らしい。己の生命の活力はまさに国際的にも立派である。国際競争の目まぐるしい今日、未開発国を日本人の勤勉と誠実な力で開拓して行く若い人々。先輩達と共に国際理解のもとに、土を愛し機械の歯車となり、時にはサービス業として、また業種の如何を問わずあらゆる職業に真の魂を打ち込んでいる姿は実に尊いものである。

今日までの幾多辛苦、いくたびかの変遷をのり越えて国際人として強固な握手のもとに世界平和への姿こそ真の幸福と感激が続くであろう。われわれは世界でほこりを身につけている大和民族である。お互に国境を越えて理解し、真の世界人としてあらゆる未開発の地を勇氣と信念をもつて拓いてこそ優れた民族としての価値は世に高く評価されるであろう。さてわたくし達の「学びの旅路」の1ページを開いて見ることにする。

—◇ロス・の日系青年◇—

ここロス・アンゼルスは南米行きコースの玄関口でもありこの都は約247万の人口で、周辺の人々を合せると約674万と言われている。産業としては石油工業、航空機業、花卉庭園業、野菜栽培等で、日本人のほかには黒人、メキシコ系、アジア系、ユダヤ系、アメリカン、インディアンなどの諸種族が入り乱れている。気候は一般に乾燥し、雨量は少ないようである。いま都市周辺の農地が住宅、商店街、工場、高速道路などの建設のために浸蝕されている。

この地にも日系人は約1万8千名を超えており、周辺を合せると7万7千名と言われている。日本人はサービス業が最



も多く、これに次いで植木、花卉庭園業であり農業経営、商業一般、飲食、食料加工業などなかなかその活躍は目ざましい。

さて、ここで農家経営にふれて見ると一。日系人農家の95%はそのお家芸ともいべき野菜果樹および花卉類の生産に従事しており、その耕作面積は、野菜類35,000エーカー。果樹（かんきち類葡萄苺）8,000エーカー。花卉、植木類3,000エーカー。

日系人の農家総生産高は8,500万ドル～9,000万ドルと推定されている。

したがって、ここ日系人社会における最大の産業として地位を保ちながら二～三世の活躍は見上げたものである。

また、一方では日本商業会議所が産業開発ならびに通商促進の中核団体となって、白人に日本生活の背景を理解させている。特に二世は一世からの経済的基礎のもとに高度の教育をうけており、活動分野は実に広がり、そしてその評価も高く社会的地位も向上している。年1回の行事である二世祭など日本文化を大々的に演じ、若い日本の男、女がこの都の人々の心をユサブっているのは見事なものだった、この地で活躍をする日系人の人々は語学だけはある程度「学ぶ心」が必要なのである。

—◇古都リマの人々◇—

ここ古い文北の街。ペルーの「リマ市」といえばインカ遺跡のところ。

広漠たる大砂漠往時のインカの偉大な文化を偲ぶ。この街の文化はなんともおくれている。

リマ市にはまだ海外移住事業団の支部は設けられてないのでもっとさびしさを感じた。すべて移住の業務は領事館があたっている。この都には日本の商社が約40社ほど活躍しており、発展の中心的存在である。

産業と言うても農業、鉱工業であり、商業はひとり伸び続けている。

広漠たる大砂漠にはところどころに玉蜀黍、棉花、砂糖等点々とその緑を増しており、また、一方野菜、牧畜業も周辺で行われている。

現在邦人約4～5万人が古き文化のもとでその人間性を求めながら活躍を続けては日本人社会を作ろうとしている。

商業、鉱業、農業などで真のペルー文化を心ざす若い人達は自らの道を拓いて真の人間像を作りあげる地でもある。

(次号へつづく)

割 烹 レストラン

香 青 軒

上 田 市 袋 町

TEL (2) 1280 (代)

信大教科書
自然科学書工学書協会特約店
株式会社 西 沢 書 店
上 田 原 町 TEL ③0024

第27回千曲会定期総会記事

菊花薫る11月23日午前10時から恒例の本案第27回総会は母校第1会議室において開催された。出席は32支会から代議員役員、会員計89名、委任状提出支会に宮崎支会外16支会25名である。総会次第は(1)開会のことば山口理事によって開会、(2)理事挨拶は山口理事より次のとおり挨拶。

理 事 長 挨 拶 山 口 定 次 郎

恒例により勤労感謝の佳き日、千曲会第27回の総会を開催いたしましたところ、数千の会員の代表として全国各支会の各位には、それぞれの地域、職域で、公私とも極めてご多端の処を、代議員または役員としてご出席下さいました。また各支会長、顧問、相談役の方々をはじめ、地もとの多数会員も、万障を排しご参加下さって、今日の総会をこのように盛大にいただきましたことは誠に喜ばしいことでありまして、ひとえに母校愛、同窓愛にうち溢れた皆様のご熱誠のあらわれにほかならないことと、この上なく心強く、感謝にたえない処であります。どうか、この一日を同窓会の議案のことはもとより、母校のこと、職業や研究上のこと、友人やお互の家庭の消息などにいたるまで短時間ながら心ゆくまで会談され、最も意義ある一日としていただきたいと存じます。

さて本会としましては、総て会務報告にもありますがこの1年間、庶務、会計、をはじめ、動静、会報、厚生、繊維科学振興会そのほか、担当理事、幹事の方々、そして事務局の不断の献身的な協力により誤まりのない運営を進めてまいったつもりであります。さらには全国の各支会や部会も多数開かれ、その都度本部からも理事、顧問、賛助員などが参上いたしました。各位の一方ならぬ協力により次第に活発になりましたし、若い卒業生も相当に関心をもち、多数出席されるようになったことは何より心強い限りであります。

然しながら、母校にとっては、まことに多事多難な年であったと思います。後に学部長から学部事情のご報告がありますが、本年4月から、一般教育は松本の教養部で行なわれることになり、当学部から200余名の学生と10数名の教員が籍をうつされましたし、これに伴ういろいろの問題も起りました。千曲会としましては、不幸にして、総会の意志とは相反しまして執行部も責任を痛感いたしました次第であります。さらに両三年前の懸案の蚕糸教育改善の問題は、大学としての問題とは申せ、現在日本の国をあげての問題でありますし、一般の教育者や、学生などよりも同窓生や、業界、地元の人々の関心の方が一層深い事柄であります。事に単純でないのはやむをえないことと考えられます。そして未解決で、あとを引いておりますが、今春までの事情は会報8月号でご覧願えたことと思います。その後の事情につきましては、学部長からのお話しをお聴きとり下さい。今日まで、この問題について陰に陽にご高慮下さった方々には特に衷心から厚く感謝の意を表します。次に本日の総会は議題の通りで、とりわけ変った問題はありますが、最も心に懸る事からは本会の財政の不如意な事情であります。すなわち毎年のように何かの形でもち出され、しかも未解決のままに残されるのは会費納入の低率なことであり、これは今後、本会の存亡にもかかわることです。ですから、事業計画にせよ予算審議にせよ、この点をクローズアップし焦点を合せて論議していただきたいのであります。本部も支会も、幹部の一方ならぬご努力により非常に納入率の高い支会もありますが一般的にはかなり低率であります。一面、会はマンモス化し老令化するにつれて、貧血症にかかってまいりました。5,000余名の会員

を擁している法人が、年収支150万円にもみえない予算しかたてられないのでは一個人の生計にも及ばないほどでまことに、たよりない限りであります。これが原因は会自体に魅力が欠けているのか、何処かにご不満があるのか会費収納技術が不適当なのか、会費が少額にすぎ無視されているのか、あるいは執行部の事務渋滞によるのか、いまだ原因がつかめませんが、とにかく角会費納入率の低いことが運営を不如意にいたしておりますので、唯一の機関紙である千曲会報も会費未納が、しばらく続いているような人々にはお届けできないようなことも考えられ、それでもよいのか、というところまでひっ迫してまいりました。申すまでもなく社団法人は公益法人であり、かつ会員の会費でまかなうのがたてまえでありますので他に財源が求められない限りは会員一人一人が会費納入の責任を果たしていただくより他に方法が無いのであります。どうかこの点について、十分実現可能なよい知恵をさづけていただきたいと思ひます。

さて本年は恰も役員改選期にあたりますので、これらの点をも考慮して、新しい酒をいれるにふさわしい新しい革袋を作って頂くよう、慎重に役員を選考をお願いしたいと思います。

終りに、本日この千曲会総会の席上において、母校と千曲会とで創作した上田繊維科学振興会の第一回の表彰式が行なわれ、千曲会の大先輩鶴田定平殿にご受賞なされますことはまことに意義深く喜びにたえない処であります。永年、蚕糸の科学面、技術面ないしは行政面において、お尽力下さった立派なご功績は枚挙にいとまがありません。今日のご栄誉を衷心からお慶び申し上げる次第であります。

以上意をつくしませんが、ご挨拶をのべて開会のことばにかえします。

(3)名誉会長挨拶は本紙2頁掲載のとおり柳沢延房繊維学部長から述べられた。

(4)議長選出は事務局一任の動議により議長に山陽支会長江野村一雄氏、副議長に北信支会水口米雄氏が選出された。江野村議長から挨拶があり議事録署名に石川博、松沢秀二両氏が決定した。(5)報告事項(1)一般会務報告は山口理事から、理事会、幹事会の経過報告並びに本部各部委員会活動報告、支会の活動状況および部会活動について、会員の現況、会費納入状況報告があった。(2)蚕糸教育改善問題の経過報告山口理事長から別掲のとおり報告(3)動静部報告は関理事支会からの動静報告に加えて直接会員が事務局に動静報告あり良い傾向である。動静の正確を期して名簿発行について考慮している。(4)会報部報告小林尚一理事、5月、8月、11月、1月、3月の5回発行予定である。会費の関係で発行回数を増すことは困難である。記事について原稿を寄せられたい。(5)厚生部報告白井美明理事北佐久郡御代田町の楓荘の利用状況と今後の利用を希望、なお楓荘周囲に有針鉄線張り正門を整備したので一応備品施設はととのった。(6)母校火災復興資金について町田理事報告学生職員厚生寮施設に使用したと考へたが実現しないため、現在収入3,867,794円支出494,363円差引3,373,431円を定期預金として保管している。(7)上田繊維科学振興会事業、北条舒正理事第5回研究助成事業は5名の研究員に助成した。学会講演会は繊維学会繊維工業化学科創立25周年特別講演会を開催本年は蚕糸学会中部支部研究発表会、繊維機械学会信越支部研究発表会が開催され本会からそれぞれ助成金を交付した。次に研究表彰は今迄行わなかったが本年は千曲会から推薦があったので振興会助成委員会で審査し、理

事で鶴田定平殿を第1回研究受賞者と決定した。本日この席上でついで表彰式を行うことになっている。

かくて表彰式のあと一同思い出の学園において記念撮影におさまり午前の日程を終了した。

◇江野村議長午後1時から議案審議(1)昭和40年度歳入歳出決算について上程、町田担当理事から別掲(本紙10頁～)の決算内容について逐一説明があった。

◇江野村議長監査報告を願います。飯田一郎監事から、11月21日中島、山崎、飯田の3名の監事により精細な監査を行なった異常はなかった。附帯事項として特別会計は楓荘施設備品に使途し事業量は少なく残額46,164円を一般会計に繰り入れてこの特別会計を廃止するように希望があった。

◇江野村議長質疑はないか

◇荻原顧問菅平部分林収入の分配について営林署と千曲会が3:7で分割し、この7を更に千曲会と学協で5:5に分割するのではないか。

◇町田理事その通りである但し学部には必要備品を寄附採納することになっている。

◇野口顧問楓荘利用料はいったん基本財産から生ずる果実として受入れこれを一般会計楓荘利用料扱にした方が宜しいではないか。

◇町田理事基本財産から生ずる果実としての扱いとする。特別会計残額46,164円を一般会計に繰り入れるようにしたい。

◇江野村議長はかり異議なく承認決定した。

(2)昭和42年度歳入歳出予算について審議上程、町田理事提案説明

◇江野村議長 質疑ありませんか。

◇神奈川支会 会費納入増強には会員の動静を正確に知る必要がある。そのためには卒業時に各クラスにその責任者をつくっておくこと。会費納入について支会に入れる人と直送する会員があるこの処理をどうするか。支会総会に出席される先生を会合前に通知できるようにしたい。

◇田口理事卒業時に責任者を決めることは行ってみたい。会費納入方法は支会と連絡をとり行っているが更に緊密にしたい。支会総会に出席の先生は支会の希望に従いたい。

◇町田理事会費本部直送は10%あり。支会での会員把握が円滑でない場合には直送となる。年一回支会に納入者を通知している。本夏から千曲会報に会費納入者名を掲載している。

◇関理事 会員動静を扱ってみてクラス責任者の場合も数年たつとその人でも無理の場合がある。

◇南佐久支会 旧い会員と新会員との納入者割合はどうか。支会総会に多く集ることが大切である。長野県の場合会員で教師が多いので新しい知識導入の機関がほしい。

◇江野村議長 各支会で正確な名簿が出来ているかどうか採決したい。100%正確支会3支会、70%が多数。

◇神奈川支会新入会員の就職が決ったら通知してほしい。

◇田口理事 入社後配置がきまるまで期間があるのでその後通知する。新卒業生の内には同窓会に無関心の会員があるが時間がたたなければならない。

◇兵庫支会新入会員の動きが不明瞭である。支会員の会費納入状況は通知を受けていない。

◇関理事 動静の正確を期したい。

◇白井事務局会員総数5,000名うち大学卒業会員1,525名で30.5%である。このうち10年間会費未納3割、最近5年間未納5割である。今後大学卒業会員の納入率の向上を期したい

◇南佐久支会千曲会本部にも責任がある。本会員の中小学校教員の身分地位向上につとめてほしい。千曲会報を純学問的なものでなく実学的の魅力あるものにしてほしい。

◇母袋忠右エ門副理事長 本会員で中学校教員で博士号保有

者もあるので関係方面に正したことがある。

◇江野村議長 外に質疑ありませんか第2号議案は原案どおり決定して宜しいか賛成決定。

(3)会費の免除剤の規定について宮城支会提案

◇白井事務局会費の免除制については第22回総会において内規で決定し実行されている。会費40回完納すれば後降免除となる例えば今迄に1時金を納めた会員は20回分会費納入と見做しあと20回分納入すれば会費免除となる。現在40回完納し免除となった会員は77名ある。多年本会発展にご協力いただいた会員に感謝する。

◇江野村議長異議がなければ(4)母校火災復興資金について、茨城支会、東京支会、上小支会の3支会提案を審議したい。◇茨城支会火災復興資金の使途を本部で考えてもらいたい。基本金に繰り入れその果実で本支会の活動にあてることが多い。

◇東京支会千曲会会計に繰り入れ利息で本会運転資金として活発な事業活動をしたい。

◇上小支会両支会と同様、就職斡旋事業等に使用したい。

◇野口顧問 千曲会で直接扱ったものでないから簡単にはいれない。理事会で使途をはかり、寄附者に通知して承認をうける必要がある。

◇群馬支会、愛知支会実行委員会の了解を得る必要がある。

◇猪坂相談役 募金の利子を繰り入れるのも筋がまちがう。今後の予備金として保存すべき性質のものである。然し就職斡旋部への資金として使用するのも良い。

◇山口理事長 講義室は立派に出来た。学生会館はどうかと考え、あと理事会に一任された。同窓会以外の寄附金もある火災に渡された形であるから同窓会がなんともいえない。

◇田口理事 学校職員学生後援会でも拠出しているので他の方との決定とにらみ合せてからしても良いのでしばらく棚上にしておきたい。

◇野口顧問 現事会一任にしてはどうか。

◇江野村議長 異議ありませんか本案は理事会一任に決定します。

◇就職斡旋部(仮称)の設置について上小支会提案説明、中高年層の再就職に重点をおくとともに昇進の道を広げると共に身上相談等の機関を設けてほしい。

◇山口理事長 従来特別活動資金によりそのようなことを行ってきたが提案に賛成。

◇蒲生顧問 原案に賛成、就職依頼の実情を説明火災復興資金を活用すべきである。

◇猪坂相談役 単なる就職斡旋という狭義的のものでなく、昇進身分の安定等広く活動出来るようにすべきである。名称もよりよい呼称を考えるべきだ。

◇母袋副理事長 母校に身の振り方について相談する場所があれば良い。第三者的な公正を期するためにも良い。

◇江野村議長 就職斡旋部の設置について名称、資金その他一切を理事会において検討することにより承認して宜しいか賛成決定。

(6)総会開催時期について茨城支会、兵庫支会提案茨城支会母校の発展状況も見たいので学部寮に合せて行うよう希望する

◇兵庫支会11月下旬の総会は寒いから10月10日ではどうか。

◇山口理事長 学校で同窓会を行うことになると10月から11月上旬は各学会が催されるので出来にくい、出来れば従来通り11月23日ときまった日が宜しい。

◇江野村議長 総会開催時期について理事会一任と決定して宜しいか異議なし。

(7)役員改選について(本部提案)

◇山口理事長 本年は理事、監事、評議員の改選期となって

いる。理事について学内は多すぎるので学内理事を減らすことの意見もある。

◇愛知支会賛助員が千曲会の役員としての資格の有無、出来れば賛助員も直接役員として千曲会の発展に尽力してもらえればよい。

◇田口理事 法規にもとずいた場合正会員をもって役員構成している。学部の方で考えて千曲会と協力してやっていける組織をつくる方がよい。

◇猪坂相談役 理事長を学外から選出には諸般の状況から見ても反対である。

◇江野村議長 選考委員を挙げて選出してはどうか。賛成なので次の11名の方に選考委員として別室で委員会を開いて選出願いたい。愛知支会小山田峻、福島支会安部和、東京支会斉藤義臣、神奈川支会高橋英、群馬支会岸勝弥、山陽支会西田正、上小支会池田俊郎、諏訪支会平沢和司男、三丹支会細川豊、上小支会竹内善吾、野口新太郎顧問。岸勝弥委員長から選考経過と次のとおり理事、監事の発表があった。学内10名学外から理事20名である。小林運美、田口亮平、母袋忠右エ門、井沢善三、江野村一雄、江口晴雄、飯田一郎、石川博加藤秀次郎、笠原正己、香山清和、香掛久雄、小林三郎、小林尚一、小山長雄、竹内善吾、田口玲、田中茂光、斉藤義臣、関博夫、土屋幾雄、篠原昭、杉山一雄、水口米雄、永井千浩、西沢正一、北条舒正、松沢秀二、和田晋、白井要範、監事中山道、町田博、坂口育三、北条五郎右エ門、山崎寿。

評議員の選出は理事会に一任に決定した。

前理事長山口定次郎教授を顧問に推戴することになった。

◇江野村議長 唯今委員長の発表した理事監事のとおり決定して宣しいか全員賛成可決決定。理事互選による新理事長には小林運美氏、副理事長に田口亮平教授、同母袋忠右エ門氏の両氏が選出された。一同拍子決定。

(8)賛助員の推挙について年度内に母校に勤務した講師以上の教官、係長級の事務官が推薦されることになっており、事務長補佐新保義一事務官、繊維工業化学科中沢昌教授、共通講座大安和助教授、繊維化学工学科松田英臣助教授、高分子工業研究施設早川忠男助教授の5名が推挙された。

(9)其の他諏訪支会から提案の新入会員入会のさい終身会費として1万円を徴収することについては昨年の総会で審議されたが理事会で継続審議に決定。(2)蚕糸教育の改善問題についても昨年来の議案であるが理事会で継続審議に決定。(3)女子会員(教婦)の会費を値下げして会費を完全徴収することについては◇愛知支会現在の会費の適否を検討する必要がある。物価指数に見合った額にするようにしたい。近い将来値上出来るムードに持ってゆくよう努力すべきだ。そうして千曲会の活動を活性化して会に魅力を感じさせたい。

◇愛知支会支会長の努力次第で会費徴収の可能性がある。

◇江野村議長 愛知支会の方向に進めてゆくようにしたい。

(4)支会の区域について、竜川支会から上伊那の一部を諏訪支会に編入されたい。

◇山口理事長 関係支会と話し合って善処されたい。又文書で提出してほしい。事務的に取り扱いたい。

午後5時全日程を終了母袋忠右エ門副理事長の閉会のことにより第27回総会は無事終了した。

昭和40年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

歳入決算額金 1,202,340円

歳出決算額金 1,123,624円

差引残高昭和41年度繰越金 78,716円

昭和41年11月23日

社団法人千曲会理事長 山口定次郎

歳 入					
項 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	253,132	50,000	203,132		
2.会 費	665,700	850,000		184,300	
3.入 会 金	77,600	80,000		2,400	新入会員 194名
4.基本財産利子	91,875	90,600	1,275		貸付信託 金銭信託 電話債券 振替利用 件数16件
5.施設使用料	15,050	20,000		4,950	
6.雑 収 入	98,983	225,900		126,917	
1)広 告 料	18,800	67,000		48,200	会社広告 年賀中 告
2)印 税		100		100	
3)普通預金利子	7,438	4,300	3,138		
4)名簿売上代	66,500	150,000		83,500	会員名簿 代
5)雑 入	6,250	4,500	1,750		組合の構 造代
7.寄 附 金		1,000		1,000	
合 計	1,202,340	1,317,500		115,160	

歳 出					
項 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.会 議 費	203,372	180,000	23,372		臨時定期 総会 72名
1)代議員旅費	114,240	60,000	54,240		
2)総会需用費	31,550	30,000	1,550		
3)役員旅費	27,490	60,000		32,510	38名
4)役員会需用費	30,092	30,000	92		
2.事 務 所 費	306,890	380,600		73,710	
1)給 料	180,000	180,000			書記給料
2)備 人 料	12,300	40,000		27,700	勤務調査 19支会総 会
3)旅 費	48,190	63,000		14,810	
4)役員交際費	9,615	15,000		5,385	
5)賞 与		100		100	
6)備 品 費	4,360	5,000		640	花器 1 圖書 2
7)消 耗 品 費	12,962	20,000		7,038	
8)会費集金費	25,110	31,000		5,890	振替用紙 領収証 切手代、 電信電話 料
9)通信運搬費	11,553	15,000		3,447	
10)雑 費	2,800	11,500		8,700	新入会員 懇談会
3.事 業 費	398,464	424,900		26,436	
1)会報発行費	333,309	364,500		30,891	
(1)編 集 費	4,000	10,000		6,000	
(2)印 刷 費	177,280	202,500		25,220	No.152~ No.160号
(3)送 料	149,329	138,000	11,329		
(4)需 用 費	3,000	14,000		11,000	宛名カー ド
2)出 版 費		100		100	

3) 会 員 名 簿 発 行 費	50,000	50,060		会 員 名 簿 発 行 費
4) 講 演 講 習 諸 費		100	100	
5) 研 究 補 助 費		100	100	
6) 調 査 費	7,007	100	6,907	
7) 慶 弔 費	7,848	10,000	2,152	
4. 厚 生 施 設 費	26,348	44,500	18,152	
1) 備 品 費		20,000	20,000	
2) 管 理 費	9,848	11,200	1,352	
3) 光 熱 水 費	5,530	5,800	270	電 気 料 料 費
4) 公 租 公 課	10,970	7,500	3,470	ガ ス 代 料 費
5. 基 本 財 産 造 成 費	77,600	80,000	2,400	固 定 資 産 税
6. 会 費 納 入 交 付 金	100,950	187,500	86,550	194 名 分
7. 予 備 費	10,000	20,000	10,000	26 支 会 交 付 金
合 計	1,123,624	1,317,500	193,876	

昭和40年度基本財産状況

基 本 財 産	基 本 財 産 保 管 状 況
固定資産 1,114,600円	
不 動 産 1,114,600	長野県北佐久郡御代田町大字草越字向原119の35
土 地 563,550	663坪 (昭和37年12月4日登記済)
建 物 551,050	木造平家建瓦葺 12.5坪
流動資産 1,189,381	三菱信託銀行貸付信託 600,000円
	金銭信託 15,728円
	電信電話債券 (額面額69万) 573,653円
基 本 金 1,189,381	
合 計 2,303,981	

項 目	収 入	支 出	現在高	備 考
前年度繰越金	1,111,688			
本年度利子収入	91,875			
本年度積立金	77,693			
通常会計繰入金		91,873		
合 計	1,281,256		1,189,381	

昭和40年度特別活動資金報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	240,916	就職斡旋委員会費	
寄 附 金		旅 費	5,240
利 子	11,112	募 金 経 費	
合 計	252,028	合 計	5,240

差引残高 246,788円は昭和41年度へ繰越す

昭和40年度千曲会菅平部分林管理費報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	73,555	調 査 費	一
雑 収 入	3,929	管 理 人 謝 礼	一
利 子	3,929		
合 計	77,484	合 計	一

差引残高 77,484円は昭和41年度へ繰越す

昭和40年度厚生事業収支報告

	収 入		支 出		
	項 目	金 額	項 目	金 額	備 考
理 髮 所	前年度繰越金	807	事 務 費	53,000	
	調 髮 代	78,000	消 耗 品 費	5,112	
			電 気 料	10,572	
			借 家 料	6,566	
			雑 費	2,559	
	合 計	78,807	合 計	77,809	
た ば こ	前年度繰越金	144	仕 入 金	1,596,292	
	売 上 高	1,685,145	運 搬 費	4,140	
	手 数 料	31,366	手 数 料	58,111	
	雑 入	238	組 合 費	2,860	
			雑 費	3,575	
			事 務 費	51,000	
	合 計	1,716,893	合 計	1,715,978	

差引残高 998円 (理髪) 及び915円 (たばこ) は昭和41年度に繰越す

母校火災復興資金報告

収 入					
項 目	39年度末	46年度末	41.11.5 現 在	合 計	備 考
寄 附 金	3,387,474			3,387,474	1,508名
利 子	265,373	143,283	71,664	480,320	定期利子
合 計	3,652,847	143,283	71,664	3,867,794	

支 出					
費 目	39年度	40年度	41.11.5 現 在	合 計	備 考
会 議 費	25,950	16,150		42,100	総会費
旅 費	39,210	17,040		56,250	総会旅費
備 入 料	5,750			5,750	
支 会 募 金	300,480			300,480	
支 会 費	49,170			49,170	
通 信 費	28,200			28,200	
印 刷 費	7,670			7,670	
消 耗 品 費	4,743			4,743	
予 備 費					
合 計	461,173	33,190		494,363	

差引残高 3,373,431円は定期予金3,002,369円、学内定期369,674、普通予金1,388円として保管

会 員 名 簿 発 行 費 会 計 報 告

収 入			
項 目	39年度末	40年度末	合 計
補 助 金	110,000	50,000	160,000
広 告 料	576,400		576,400
名 簿 売 却 代	351,075	51,596	402,671
利 子	2,753	1,137	3,890
合 計	1,040,228	102,733	1,142,961

支 出			
項 目	39年度末	40年度末	合 計
編 集 費	30,705	1,680	32,385
印 刷 費	460,000		460,000
通 信 運 搬 費	51,662	1,590	53,252
支 会 手 数 料	153,950		153,950
消 耗 品 費	27,483		27,483
一般会計繰入金	250,000	66,500	316,500
合 計	973,800	69,700	1,043,570

差引残高 99,391円は昭和41年度に繰越す

昭和42年度社団法人千曲会歳入歳出予算書

歳入予算額 金 1,485,500円

歳出予算額 金 1,485,500円

歳入歳出差引残高 な し

昭和41年11月23日

社団法人千曲会理事長 山口定次郎

歳 入					
項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	60,000	60,000			
2.会 費	1,045,000	990,000	55,000		(1900 +190) ×500 200人
3.入 会 金	200,000	200,000			
4.基本財産利子	114,300	100,370	13,930		基本財産 1,704,000 楓荘 延100人 年賀、暑 中、会社 広告
5.施設使用料	20,000	20,000			
6.広 告 料	35,000	50,000		15,000	
7.雑 収 入	10,200	29,130		18,930	
1)普通子金利子	5,200	4,500	700		
2)名簿売上代	1,000	20,000		19,000	5冊
3)雑 入	4,000	4,630		630	
8.寄 付 金	1,000	1,000			
合 計	1,485,500	1,450,500	35,000		

歳 出					
項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備 考
1.会 議 費	260,000	250,000	10,000		
1)代議員旅費	110,000	100,000	10,000		50人
2)総会需用費	20,000	35,000		15,000	
3)役員旅費	100,000	85,000	15,000		10人
4)役員会需用費	30,000	30,000			
2.事 務 所 費	397,100	393,600	3,500		
1)給 料	210,000	180,000	30,000		
2)傭 人 料	10,000	40,000		30,000	
3)旅 費	100,000	100,000			50人
4)役員交際費	10,000	15,000		3,000	
5)賞 与	100	100			
6)備 品 費	2,000	2,000			
7)消 耗 品 費	18,000	15,000	3,000		文具費
8)会費集金費	15,000	15,000			振替用紙 切手、電 信電話料
9)通信運搬費	20,000	15,000	5,000		
10)雑 費	12,000	11,500	500		紙筒

3.事 業 費	353,400	333,200	20,200		
1)会報発行費	288,200	253,000	35,200		
(1)編 集 費	3,200	5,000		1,800	
(2)印 刷 費	121,000	138,000		17,000	4,500部 4回
(3)送 料	150,000	100,000	50,000		封筒、フ テナカー ド
(4)需 用 費	14,000	10,000	4,000		
2)出 版 費	100	100			
3)会 員 名 簿 費	50,000	70,000		20,000	
4)講 演 講 習 費	100	100			
5)調 査 費	100	100			
6)慶 弔 費	15,000	10,000	5,000		
4.厚 生 施 設 費	36,000	45,700		9,700	
1)備 品 費	5,000	18,000		13,000	委託管理 料外
2)管 理 費	14,000	13,000	1,000		
3)光 熱 水 費	6,000	6,200		200	固定資産 税 200名 (1,900+ 190)× 150×07
4)公 租 公 課	11,000	8,500	2,500		
5.基本財産造成費	200,000	200,000			
6.会費納入交付金	219,000	208,000	11,000		
7.予 備 費	20,000	20,000			
合 計	1,485,500	1,450,500	35,000		

昭和40年度財団法人上田繊維科学振興会歳入歳出決算書

歳入決算額 金 409,839円

歳出決算額 金 309,113円

歳入歳出差引残高 金 100,726円 (昭和41年度へ繰越)

歳 入					
項 目	予算額	決算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	70,000	163,099	93,099		
前年度繰越金	70,000	163,099			
2.基本財産利子	244,800	244,970	170		基本財産 電話債券 330万 貸付信託 10万円の 利子
基本財産利子	244,800	244,970			
3.雑 収 入	2,100	1,770		330	
当座子金利子	2,000	1,770		230	
雑 入	100			100	
4.寄 附 金	100			100	
合 計	317,000	409,839	92,839		

歳 出					
項 目	予算額	決算額	増	減	備 考
1.事 務 費	41,400	39,113		2,287	
(1)手当及び旅費	15,600	15,480		120	
手 当	9,600	9,600			
旅 費	6,000	5,880		120	
(2)需 用 費	9,800	7,623		2,197	
消 耗 品 費	4,300	3,398		902	文具費
通 信 運 搬 費	3,200	2,125		1,075	
雑 費	2,300	2,100		200	
(3)会 議 費	16,000	16,010	10		
会 議 費	16,000	16,010	10		
2.事 業 費	270,000	270,000			
(1)研究助成及び 表彰	160,000	160,000			6名

(2)学会講演会費	110,000	110,000			織維学会 日本気象 学会 織維工業 化学創立 25周年講 演会
3.予 備 費	5,600			5,600	
予 備 費	5,600			5,600	
合 計	317,000	309,113		7,887	

昭和42年度財団法人上田織維科学振興会歳入歳出予算書
 歳入予算額 金 322,000円
 歳出予算額 金 322,000円
 歳入歳出差引残高 な し

歳 入					
項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	75,000	75,000			
前年度繰越金	75,000	75,000			
2.基本財産利子	244,800	244,800			電話債券 3,300,000 貸付信託 100,000
基本財産利子	244,800	244,800			
3.雑 収 入	2,100	2,100			
予 金 利 子	2,000	2,000			
雑 入	100	100			
4.寄 附 金	100	100			
寄 附 金	100	100			
合 計	322,000	322,000			

歳 出					
項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備 考
1.事 務 費	44,500	42,900	1,600		
(1)手当及び旅費	16,200	15,600	600		
手 当	9,600	9,600			謝金
旅 費	6,600	6,000	600		
(2)需 用 費	10,800	10,300	500		
消 耗 品	4,500	4,300	200		文具費 切手 電話料
通信運搬費	3,700	3,400	300		
雑 費	2,600	2,600			
(3)会 議 費	17,500	17,000	500		
会 議 費	17,500	17,000	500		10回
2.事 業 費	256,500	251,500	5,000		
(1)研究助成及び 表彰費	184,500	181,500	3,000		研究助成 費30,000 × 5 表彰 34,500 学術講演 会 3 回
(2)学会講演会費	72,000	70,000	2,000		
3.予 備 費	21,000	27,600		6,600	
予 備 費	21,000	27,600		6,600	
合 計	322,000	322,000			

会 費 領 収

昭和41年度会費及び前納会費

根岸 只吉(紡 4 東京) 5,000円
 峰村 稔(学系1 ") 3,000円
 池内 鼎(学化4 山陽) 2,000円
 結城 鎮男(蚕 11 北九州) 3,000円
 杉山 一雄(糸 16 群馬) 4,700円
 小口 英一(糸 12 諏訪) 2,500円
 浜田 秀弥(糸 26 ") 1,000円
 御子柴啓由(学織9 安筑) 1,500円
 柳沢 元久(学系12 熊本) 1,000円

昭和42年度会費

大工原 健(学系7 山形) 500円
 倉島 紀富(紡 22 愛知) 500円

昭和41年度会費500円

天野 末治(蚕 9 愛知)
 斎藤 磯雄(学紡13 ")
 阿部 丈夫(蚕 15 南佐久)
 前島 正直(蚕 21 ")
 松永 省治(蚕 37 ")
 野沢 潤子(学系5 ")
 供野 敏(化 7 ")
 工藤 栄次(蚕 27 ")
 新野 武雄(糸 21 石川)
 阿良田卓三(紡 専 ")
 浅野スミ子(教 3 ")
 斎田 新次(学系2 ")
 細川 泰徳(学系6 ")
 伊藤 彰彦(紡 27 ")
 大熊 良孝(学紡4 ")
 小山 恵久(学紡11 ")
 箱山 宗一(学紡11 ")
 小泉 孝雄(学紡3 ")
 猪瀬 親二(蚕 11 栃木)

白石 金藏(蚕 31 ")
 岩下 嘉光(蚕 37 ")
 佐藤 秀夫(蚕 30 ")
 門田秀太郎(蚕 10 ")
 富山 昌臣(学織12 ")
 山崎 宏(学織11 ")
 若林 宏一(糸 33 ")
 江田 重男(化 4 ")
 池田 嘉邦(学工13 ")
 福田貴代子(養 5 ")
 小堀 四郎(学紡7 ")
 高沢 巧衛(農 3 更埴)
 馬場 長市(糸 16 東京)
 榎本 健治(紡 13 三重)
 和田 敦(蚕 18 北奥)
 山越 清美(化 4 北信)
 荒井 肇(学化11 愛知)
 荒井 郁子(学化11 ")
 榊原鶴次郎(蚕 4 ")
 鈴木 薫(学系7 ")
 青木 久夫(学系5 諏訪)
 富永 暲(糸 26 ")
 加藤 隆正(紡 21 愛知)
 小森 栄三(糸 37 ")
 安井 健一(紡 27 ")
 今井 邦夫(紡 27 ")
 三浦 正夫(糸 31 ")
 板根 勝夫(学紡13 ")
 武田 昭一(化 6 ")
 佐塚 隆一(学織12 ")
 片桐 康(学化4 ")
 善積 寛明(学化9 ")
 尾藤 省三(蚕 10 ")
 田島 信雄(化 1 ")
 田村 義隆(化 6 ")

宮尾 行雄(糸 22 ")
 昭和40・41年度会費1000円

池田 俊郎(蚕 21 上小)
 望月 昭男(蚕別2 ")
 白田 隆夫(紡 23 ")
 川谷寿一郎(蚕 23 北九州)
 稲石 佐一(蚕 3 愛知)
 石坂 安雄(学系7 諏訪)
 内海 辰三(紡 28 東京)
 酒匂 景雄(蚕 22 鹿児島)
 梅村 義一(糸 19 岐阜)
 由井 千幸(糸 16 諏訪)
 小松 忠幸(糸 25 ")
 手塚 政吾(糸 13 ")
 村山 稷助(学系1 ")
 小林宇佐雄(糸 38 ")
 安倍 吉昭(学化10 愛知)
 金井賢太郎(学紡1 ")
 宮下 味次(学紡8 ")
 吉野 和夫(紡 26 ")
 牧 武司(機 1 ")
 長峯 泉(学蚕2 ")
 沢田 克行(学系8 ")
 平野 庄一(紡 16 ")
 中村 克美(化 7 ")
 青木 仁夫(学化3 愛知)
 堅山 幹男(糸 37 南佐久)
 野沢司馬作(蚕 13 ")

昭和41年度会費及び未納会費

河田 栄一(蚕 18 上小) 2,000円
 細川 俊雄(蚕 18 ") 2,200円
 田沢 輝雄(蚕 22 更埴) 1,000円
 堀込 宗吉(学蚕7 静岡) 2,800円
 小林 正治(学蚕3 愛知) 2,000円
 吉沢 英三(糸 33 諏訪) 3,700円

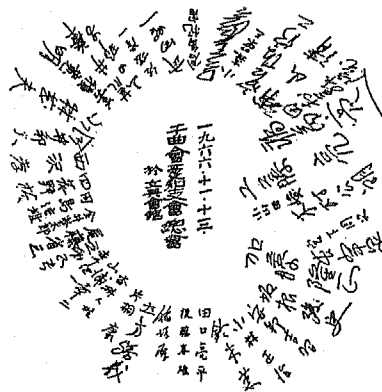
中山 鑑一(蚕 3 茨 城)	1,500円
寺島 雅彦(蚕 13 ")	700円
生天目久平(蚕 25 ")	700円
影山 剛(蚕 33 ")	700円
永井 保郎(化 4 ")	700円
金井 節博(学蚕 3 ")	700円

支 会 だ よ り

千曲会愛知支会開催さる

11月13日昭和41年度千曲会愛知支会が名古屋市内の文芸会館にて開催された。当日は母校から田口理事、後藤先生をお迎えし、愛知県内に在職する千曲会同窓生37名が参集した。席上、田口理事からは、母校の近況及び千曲会の活動、運営状況についてのお話があり、ついで千曲会をさらに活発な機関に発展させる方法に関して、真剣な討論が行なわれた。

また学生時代の思い出話、現在の活躍状況などを折り込んだ恒例の自己紹介を行った後、愛知支会長に小山田峻氏(化3回卒)を再選し、来年11月の第2日曜日に再会することを約して、尾藤大先輩の万才三唱で会を閉じた。



鹿兒島支会だより

昭和41年度千曲会鹿兒島支会総会は色々な都合でのびのびとなっていたが、12月3日午後3時から鹿兒島易居町夜明寿司で開催された。

幸天氣に恵まれ暖かく出席者多いかと

期待していたが9名しか見えなかった。総会開催を促していた安田兄は上京のため、岩切兄は激務の最盛期で宇都宮、酒匂、岩崎、小島、新任の片倉末吉工場原料課長は何れも仕事の都合で出席されなかった事は残念であった。併し新会員の片倉工業株式会社宮之城工場原料課長楠八重行雄兄を迎えたことは力強くうれし

い限りであった。先づ支部長が発言職責果されず支部各位に御迷惑をかけているし昨年辻兄を副支部長に日高兄を幹事に御願いしたのもそのつもりであった。是非今年は支会の刷新のためにも交代を願ったが「名のみでよい仕事はお二人に御願いするから」との会員の総意で又を引請けざるをえなくなった。

次に昭和40年度各位の会費を徴収し、宴会費一切は鈴木、土生、兄玉兄等が御寄贈され結局会費だけの出費には恐縮する。皆んな遠慮なくおいしく食べ楽しく呑み久し振りに、はめをはづして時の過ぐるを忘れ楽しく話し合った。(中山記)

当日出席された各位は

- 鈴木茂(糸22)片倉鹿兒島蚕種製造所長
- 土生碧二(糸24)片倉宮之城工場々長
- 楠八重行雄(蚕27)全 原料課長
- 辻義男(蚕24)鹿兒島県農蚕産糸課産糸主任
- 日高篤(糸34)全 製糸係主任
- 牧富寿雄糸(32)鹿兒島県繭検定所主任
- 岸本礼一(紡24)通産省神戸繊維製品検査所鹿兒島出張所所長
- 兄玉新一(蚕24)⑤繊維雑貨卸店社長
- 中山吉二(蚕12)山本興業長崎鼻自然公園々長

斯くて午後6時和気霽々の中に母校、千曲会鹿兒島支会の発展を祈り万才三唱し皆んなと別れを惜みつつ散会した。

本 会 記 事

常任理事会開催

12月17日常任理事会開催、出席は小林運美理事長、田口亮平副理事長外学内全理事及び上小支会から香山清和、井沢喜三、竹内善吾、田口玲、西沢正一、斉藤

義臣の各理事及び前理事長山口教授、学内前理事出席し事務引継ぎ及び前の総会で審議を理事会に一任された事項

(1)本部理事事務分担(2)本部各部委員委嘱(3)評議員の推薦(本紙15頁参照)(4)母校火災復興資金については学部の計画都合がはっきりするまで棚上げしておくことに決定(5)就職斡旋部の組織及び運営については名称を厚生部と呼称し、従来の厚生部は利用部とすることに決定。就職斡旋身分安定、昇進その他相談等厚生部の仕事は千曲会自体が厚生部であるので、其の組織については部長に田口副理事長及び各学科から理事1名あて及び笠原正巳理事が委員に顧問として各学科主任の先生になってもらう事に決定した。運営資金については今後の理事会で決めることになった。(3)会費納入増強については総会において論議された問題でやはり支会長に度々依頼して納入率の向上を期し、個人別にも忘れて未納の会員に督促することになった。

各地で支会総会開かる

- 茨城支会11月13日開催本部から町田理事出席。
- 愛知支会11月13日開催本部から田口理事、賛助員後藤春雄先生出席。
- 南佐久支会11月13日開催本部から三石理事出席、支会長に阿部丈夫氏選出さる。
- 上小支会11月15日幹事会を千曲会館にて開催。
- 兵庫支会11月18日開催本部から石川理事出席。
- 東京支会11月18日開催本部から坂口理事出席。
- 宮城支会11月19日開催新支会長に東家明秀氏が選出された。
- 竜川支会11月19日開催本部から町田理事出席、支会長に市瀬武寿氏選出さる。
- 北佐久支会11月20日開催本部から土屋理事出席。
- 北信支会県庁千曲会12月2日開催本部から小林尚一理事、田中茂光理事出席。
- 諏訪支会12月4日開催本部から青沼茂前理事出席。

現代の嗜好品中話題のクルミ栽培唯一の指針書

農文協特産シリーズ7

町田博著「クルミ」—つくり方の実際

B 6 140頁 定価200円 円50円

発行所 東京都港区北青山2-12-9

農山漁村文化協会

最寄の書店でお求められなかった方は本協会または著者にお申し込下さい。



皆様の百貨店

上田・中央

ほてりや

社団法人千曲会役員 (41.11.23改選)

名誉会長 1名	柳沢延房
顧問 6名	蒲生俊興, 倉沢美徳, 八木誠政, 野口新太郎, 荻原清治, 山口定次郎
相談役 10名	高木三治, 野崎清, 橋詰英雄, 猪坂直一, 有賀文雄, 伊藤鏡, 宮城博, 小宮山太助, 鈴木教吾, 土屋茂一郎
理事 1名	小林運美
副理事長 2名	田口亮平, 母袋忠右衛門
監事 30名	井沢喜三, 石川博, 飯田一郎, 江野村一雄, 笠原正巳, 香山清和, 加藤秀次郎, 香掛久雄, 小林尚一, 小林三郎, 小山長雄, 斎藤義臣, 杉山一雄, 篠原昭, 関博夫, 竹内善吾, 田口玲, 田中茂光, 土屋幾雄, 永井千治, 江口晴雄, 西沢正一, 北条舒正, 松沢秀二, 水口米雄, 和田晋, 白井要範, 中島退, 町田博, 山崎寿, 北条五郎, 坂口育三

——千曲会本部事務分担——

庶務部	関博夫, 井沢喜三, 田中一行, 矢彦沢清允
会計部	小林尚一, 土屋幾雄, 田口玲, 桜井善雄, 関口定, 山本満寿雄
会報部	小山長雄, 篠原昭, 西沢正一, 小林勝, 滝沢達夫, 小笠原真次, 平林潔, 中沢賢
動静部	松沢秀二, 田中茂光, 青沼茂, 押金健吾, 清水泥, 武井隆三, 島田潤一, 美斎津利正, 小林倫子
利用部	石川博, 和田晋, 竹重為彦, 林貞男, 柳沢幸男
学術出版部	北条舒正, 竹内善吾, 古平福紀, 白井汪芳
科学振興会	田口亮平, 笠原正巳, 小林尚一, 関博夫, 北条舒正, 篠原昭
厚生部	(各学科主任) 山口定次郎, 野口新太郎, 会田源作, 高木春郎, 黒岩茂隆
顧問	白井要範, 小山よし子
事務局	

評 議 員 (○印支会長)

○勝野 貞哉	○和田 敦	山本友之丞	○栗 原章
○原田 種亀	○岸 勝弥	目崎 武美	○船后 勇平
○前沢 康雄	○高橋 汎一	○大沢 宝市	○武田 一好
○藤田 四郎	○奥村 忠治	○秋山 利夫	○長谷川敏夫
○鶴田 定平	○笹本 保雄	○大山 融	倉沢一二三
○阿部 丈夫	○箱山 佳夫	池田 俊郎	茅野 功
○西村 国男	○宮入 保	○永井 真吉	浅野 清志
○市瀬 武寿	○鈴木 正悟	○横沢 正雄	○宮沢 岬
○細川 豊	○清水 良一	○林 邦治	○工藤 見吉
○内川 勇	○緒方善之助	○窪田 盛	○深迫 明
○中島 茂	○中山 吉二	竹田 寛	松尾 卓見
○古平 福紀	田中 一行	桜井 善雄	押金 健吾
○久根下栄一	市川 文夫	中島 章夫	大井 昌次
○蒲生 卓磨	県 和一	田村 博一	富山 昌臣
○黒岩 覚	○小山 俊吾	○小山 清	○荒井 猛
○三谷 勝	○小山 祖光	○磯部 英一	○山田 良人
○池田 正三	○東家 明秀	○荒木 慎蔵	○山崎 管録
○白井 美明	○松野 輝彦	○高橋 英	○新野 武雄
○森 剛夫	○岩本 賢治	尾沢 敏男	山浦 克巳
○小泉 辰雄	○小松 忠孝	小畑 忠富	牧野徳太郎
○阿部 信夫	羽生 英尚	松尾 五郎	竹重 為彦

羽重 次郎	青沼 茂	松山仁一郎	清水弥智夫
島崎 昭典	松永 省治	近藤 成敏	平林 潔
金丸 昭明	鈴木 薫	山本 繁	飯島 貞雄
百瀬 文雄	○桐本地喜男	高品喜市郎	藤井富美男
川合 久午	○川久保 元	伊藤 二男	榎本 健治
遠藤 恒久	安井 健一	星田 馨	北沢 茂樹
大谷 隼人	浅治製袋男	宮下 方	田中 宗一
笠原 義昭	母袋 健一	山浦 幸二	柳沢 市登
佐藤 憲三	羽場 清人	高橋 国清	宮坂 啓象
金田 久	佐々木喜久	中沢 賢	鈴木 基泰
知野 光伸	小泉 幸道	田島 信雄	萩原 秀治
柳沢千代茂	○小山田 峻	佐藤 雅久	今井甲子男
秋山 昭夫	松本 昇	三石 賢	清水 泥
矢彦沢清允	林 利一	和田 良央	小笠原真次
林 負男	小松 好人	高沢 弘明	小川原祥興
白井 汪芳	長谷 実	青山 尚生	戸田 正行
角田 定	中沢 孝夫	岡田 純	柳沢 幸男
美斎津利正	関口 定	橋本久之助	保科 孝
石川 光也	長谷川悟史	森泉 次夫	中塚 吟造

第27回千曲会総会出席者氏名 (順序不同)

安部 和 (福島)	佐田 敏夫 (茨城)
桜井 芳雄 (千葉)	斎藤 義臣 (東京)
小林 運美 (東京)	岸 勝弥 (群馬)
山田 良人 (静岡)	堀込 宗吉 (静岡)
高橋 英 (神奈川)	久保田康夫 (埼玉)
鶴田 定平 (山梨)	土屋茂一郎 (北佐久)
櫻山 幹男 (北佐久)	前島 正直 (南佐久)
松永 省治 (南佐久)	伴野 邦敏 (〃)
西原 美登 (福井)	蒲生 俊興 (上小)
母袋忠右衛門 (上小)	茅野清三郎 (〃)
井沢 喜三 (〃)	竹内 善吾 (〃)
池田 俊郎 (〃)	箱山 住夫 (〃)
田口 玲 (〃)	猪坂 直一 (〃)
白井 要範 (〃)	和田 晋 (〃)
茅野 功 (〃)	西沢 正一 (〃)
小宮山太助 (〃)	田口 亮平 (学内)
竹田 寛 (学内)	土屋 幾雄 (〃)
小笠原真次 (〃)	三石 賢 (〃)
松尾 卓見 (〃)	小林 勝 (〃)
柳沢 幸男 (〃)	山本満寿夫 (〃)
青沼 茂 (〃)	坂口 育三 (〃)
町田 博 (〃)	萩原 清治 (〃)
小山 長雄 (〃)	山口定次郎 (〃)
白井 美明 (〃)	野口新太郎 (〃)
平林 潔 (〃)	北条 舒正 (〃)
松沢 秀二 (〃)	武井 隆三 (〃)
高沼 重義 (〃)	林 貞男 (〃)
遠藤 恒久 (〃)	押金 健吾 (〃)
山崎 管録 (〃)	大谷 隼人 (〃)
田中 茂光 (〃)	宮城 博 (更埴)
中村 泰輝 (更埴)	湯沢 隆義 (〃)
飯田 一郎 (北信)	水口 米雄 (北信)
平沢和司男 (諏訪)	市瀬 武寿 (竜川)
久保田頼二 (竜川)	倉島 紀富 (愛知)
香掛 久雄 (愛知)	小山田 峻 (〃)
福島 亮一 (〃)	細川 豊 (三丹)
宮沢 岬 (京滋)	江口 晴雄 (近畿)
丸田 節男 (兵庫)	江野村一雄 (山陽)
西田 正 (山陽)	湯原 清 (高知)

会 員 動 静

百瀬 文雄 紡 14 愛 知 豊橋紡績KK豊橋工場(豊橋市大清水町)
菅尾 源治 紡 15 山 陽 KK菅尾商店(広島市市場町1丁目1番5号 間屋町本通り)
深沢 実 紡 20 埼 玉 (住) 広島市若草町1.107
谷口 昭三 紡 25 三 重 ニチボーKK宮川工場(三重県度会郡小俣町)
丸山 裕 紡 28 近 畿 大和紡績KK和歌山工場紡績課長(和歌山県日高郡美浜町2番地)
羽場 清人 学紡3 近 畿 三菱レイヨンKK大阪支店(大阪市北区中之島2922新朝日ビル)
大滝 忠長 学紡6 近 畿 郡是労働組合(大阪市北区曾根崎新地2-17毎日産業ビル)
林 郁男 学紡6 愛 知 (住) 宝塚市切畑長尾山12-273郡是宝塚アパート3-25
轟 道彦 学紡10 愛 知 三菱レイヨンKK名古屋支店(名古屋市中村区広井町3の88)
白木 孝典 学紡11 東 京 倉敷紡績KK安城工場(愛知県安城市大東町)(住)安城市大東町倉敷紡績KK安城工場好日寮
鈴木 基泰 学紡11 愛 知 勤前のとおり(住)東京都太田区田園調布4丁目21番地の17
吉川 都 学紡13 東 京 東洋タイヤコードKK西尾工場(愛知県西尾市上矢田町新明寺3番地)(住)同上社宅若竹寮
樋口 昭 化 5 近 畿 旧姓住 東京都目黒区碑文谷4-15-13長沢方
中曾根和夫 化 8 富 山 日本専売公社炭木工場(大阪府茨木市下徳積860の4)
高城 克二 化 9 近 畿 倉敷レイヨンKK富山工場工務部(富山市越町1933)
高橋 栄一 学化3 東 京 日本エクスラン工業KK技術部第3技術サービス課(大阪府北区堂島浜通り1丁目25-1新大阪ビル)
池内 鼎 学化4 山 陽 (住) 東京都中野区宮前町21
帝人KK三原工場ナイロン製

造部住上係(住)三原市門一町帝人東社宅22号
小林 敬明 学化6 東 京 ライオン油脂KK本社(住)千葉県船橋市前原1の629
井出製袋市 学化9 兵 庫 (住) 兵庫県西宮市東鳴尾町1-1-14
浦上 素明 学化11 近 畿 ニチボーKK加工工務部第2加工課山崎工場(住)大阪府三島郡島本町山崎1
戸谷 澄 蚕 30 千 葉 千葉県木更津高等学校(木更津市)
中山千佐登 学紡7 諏 訪 本田導線KK(長野県諏訪市上諏訪赤羽)
佐藤 崇 紡 20 三 重 東洋紡績KK楠工場長(三重県三重郡楠町本郷)
新海 栄学 化 13 東 京 勤前のとおり(住)東京都立川市砂川町2281の69
上原純之丞 糸別2 東 京 (住) 東京都八王子市清川町12の6
望月 昭雄 蚕別3 北 信 長野県長水蚕業技術指導所(長野市県町)
細田 親二 糸 15 愛 知 勤前の通り 名古屋市中山区小幡東島3007の138
新井 正彦 学化8 近 畿 日本化学繊維協会大阪事務局技術課(大阪市東区瓦町5丁目39番地化学繊維会館)(住)大阪府高槻市緑町13-11日本化学繊維協会高槻社宅
天野 末次 蚕 9 愛 知 弁護士(岡崎市西阿知町中根110)
坂倉 晴彦 学紡13 近 畿 (旧姓大田(勤前のとおり(住)大阪府泉大津市二田290)
倉橋 琢而 糸 10 近 畿 勤前のとおり(住)大阪府摂津市正雀本町2-6-2
篠ヶ瀬勝義 学紡12 北九州 ブリジストンタイヤKK久留米工場製造部製造技術課(久留米市京町1の6)(住)久留米市旭町BSアパート3の9
武田 昭一 化 6 愛 知 興和KK物資部化成品課(名古屋市中区錦3-6-29)(住)名古屋市北区楠町味鋤岩屋堂41-1
古平 善蔵 学紡7 東 京 勤前の通り(住)東京都小金井市桜町3-5-1
清水 順三 学紡1 越 佐 新潟県立長岡工業高等学校(長岡市)

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4
堤 第一ビル4階
東京(591) 0764・0765

弁 理 士 浜 香 三
弁 護 士 中 猪 之
千 曲 会 員 福 島 鋼 治 郎

編 集 室 よ り

1967年の新年を迎え会員各位のいよいよご健勝にてますますご活躍と発展の程期待申し上げます。

第27回本会総会役員改選により新理事長に小林運美前副理事長が選任された。巻頭に母校の発展と本会の向上を切望する力強い実行力あるご挨拶を寄せられた。

本会構成のうち従来の厚生部を利用部に改め、新に厚生部を開設し会員身上相談の窓口を設けた。軌道にのり本会の充実向上を希い会員各位の一層のご協力をお願いいたします。

編集委員 小林 尚一、竹田 寛、石川 博
松沢 秀二、武井 隆三、小笠原真次
平林 潔、白井 要範